

二〇一五年 九月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

みんなちがって みんないい

金子みすゞ

今月の言葉は、金子みすゞさんの詩『私と小鳥と鈴と』に出てくる一句です。空を飛べる鳥と、音を鳴らせる鈴と、それはできないけどたくさんのうたが歌える私を比べています。「みんなちがって、みんないい」とは、それぞれに個性を持ち、光輝いていることを表しています。私たちは普段の生活の中で、誰かと自分を比べてしまうことがあります。一つのクラスで考えてみると、一人ひとり個性を持ち、得意不得意(できること・できないこと)があるのがわかります。『阿弥陀経』という經典の中に、「青色青光・黄色黄光・赤色赤光・白色白光」という句があります。青い花は青い光を、黄色の花は黄色い光を、赤い花は赤い光を、白い花は白い光を放っていると言われています。それぞれの色が個性を持ち、力いっぱい咲いて、一つに調和していくのです。みなさんもお互いに認め合い、それぞれの個性を大切にしながら、一歩ずつ成長していったってほしいと思います。

今月の聖語

貪愛とんあいの心、常によく善心を汚し、瞋憎しんそうの心、常によく法財を焼く。

『教行信証』

今月の聖語は、親鸞聖人の著『教行信証』に記されている言葉です。貪愛の心とは、欲望にまかせて貪(むさぼ)り求める心のこと。瞋憎の心とは、自分の思いどおりにならぬいことに対して、怒りや憎しみの感情を抱くことです。「常によく善心は、自分らしく生きたいという思いを指し、法財は(仏に成れる素質を持った)自分という存在を表しています。親鸞聖人は、欲望にまかせて貪ることが、自分らしく生きたいという心を覆い隠し、そこから起ってくる怒りや憎しみが自分を壊してしまつと述べています。「この貪りを生み出すのは、執着(とらわれの心)にほかなりません。たとえば、欲しい物があると、「あれが欲しい、何とかして手に入れたい」という欲望が生じます。欲しい物が手に入らない(思いどおりにならない)と、怒りが生じ始めます。その怒りが周囲に害を与え、自分さえも壊すことにもなりかねません。こうした心が日常沸き起る中で、そうならないようにしっかりと自分を見つめることが大切であり、それが自分らしく生きる「常」にも繋がるのではないのでしょうか。